

はしがき

本報告書は、当研究所が令和2～4年度外務省外交・安全保障調査研究事業（発展型総合事業）「国際秩序の転換期における日本の秩序形成戦略－台頭する中国と日米欧の新たな協調」のサブ・プロジェクトの一つとして実施してきた研究プロジェクト「国際秩序の動揺と米国のグローバル・リーダーシップの行方」における2年目の成果をとりまとめたものです。

米国と中国の戦略的競争は、異なる価値観に基づく統治モデルを有する大国間のせめぎあいの様相を呈しており、インド太平洋地域において最も先鋭化するとともに、軍事・安全保障分野に加えて先端技術のサプライチェーンや戦略的資源の確保を巡っても、一層激化しています。また、令和4年2月末にはロシアによるウクライナ侵略が始まり、米国をはじめとする国際社会は前例のない経済制裁を中心に様々な措置をとってきています。そうした中、米国内における政治的分断は進む一方の様相を呈しています。

このような厳しい内外の情勢にバイデン政権はどのように対応しているのか、本プロジェクトは、バイデン政権における米国の内政と外交をめぐる諸問題について分析し、現況を的確に把握することに努めた研究成果です。

なお、ここに表明されている見解は、すべて個人のものであり、当研究所の意見を代表するものではありません。本報告書がわが国の外交実践に多く寄与することを心より期待します。本報告書に対する忌憚なきご意見、ご批判をいただければ幸いです。

最後に、本研究に積極的に取り組まれ、報告書の作成に尽力いただいた執筆者各位、ならびにその過程でご協力いただいた関係各位に対し改めて深甚なる謝意を表します。

令和4年3月

公益財団法人 日本国際問題研究所
理事長 佐々江 賢一郎

研究体制

主査：	中山 俊宏	慶應義塾大学教授／ 日本国際問題研究所上席客員研究員
委員兼研究顧問：	久保 文明	防衛大学校校長／ 日本国際問題研究所上席客員研究員
委員：	飯田 健	同志社大学教授
	梅川 健	東京都立大学教授
	梅川 葉菜	駒澤大学准教授
	小濱 祥子	北海道大学准教授
	佐橋 亮	東京大学准教授
	待鳥 聡史	京都大学教授
	森 聡	法政大学教授
	渡辺 将人	北海道大学准教授
委員兼幹事：	市川とみ子	日本国際問題研究所所長
	永瀬 健介	日本国際問題研究所研究調整部長
	舟津奈緒子	日本国際問題研究所研究員
担当助手：	井原 弥生	日本国際問題研究所研究助手
	小山亜紀子	日本国際問題研究所研究助手

目 次

第1章	バイデン政権が向き合った三つの危機 ——そして、新たに加わったウクライナ危機	中山 俊宏……………1
第2章	長い民主化と政党政治	待鳥 聡史……………9
第3章	対外政策に関する米民主党内の認識	森 聡……………17
第4章	アメリカの同盟コミットメントに対する日本の 有権者の信頼 ——国問研・シカゴ共同世論調査データの計量分析	飯田 健……………23
第5章	アメリカの台湾政策（2021～22）	佐橋 亮……………33
第6章	米国中華系社会の変容 ——台湾系、移民社会の国際性、メディア—	渡辺 将人……………41
第7章	バイデン政権の内政と外交 ——政権発足1年を振り返る	舟津奈緒子……………55
第8章	バイデン政権とアメリカ議会： 拮抗する上院でいかにフィリバスターを回避するか	梅川 健……………61
第9章	現代アメリカの地方自治と州の専占	梅川 葉菜……………69
第10章	バイデン大統領の統治戦略をめぐって ——フランクリン・D. ローズヴェルトかトルーマンか	久保 文明……………77